

探究的な学習の充実を図る総合的な学習の時間の実例

－「農業体験」を通じた探究活動の実践例－

新学習指導要領の総合的な学習の時間「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」には、内容の取扱いで配慮すべきこととして以下の記述がある。

- (3) 自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験，ものづくり，生産活動などの体験活動，観察・実験，見学や調査，発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。
- (4) 体験活動については，第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ，問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けること。

これは，適切な体験活動を積極的に行うことと，体験活動を単なる体験ではなく探究活動の中に適切に位置付けることを意味している。

次の実践例は，米作りという体験活動をベースとして，郷土・環境・食育などの様々なテーマに関することについて探究しながら学習を組み入れた実践例である。

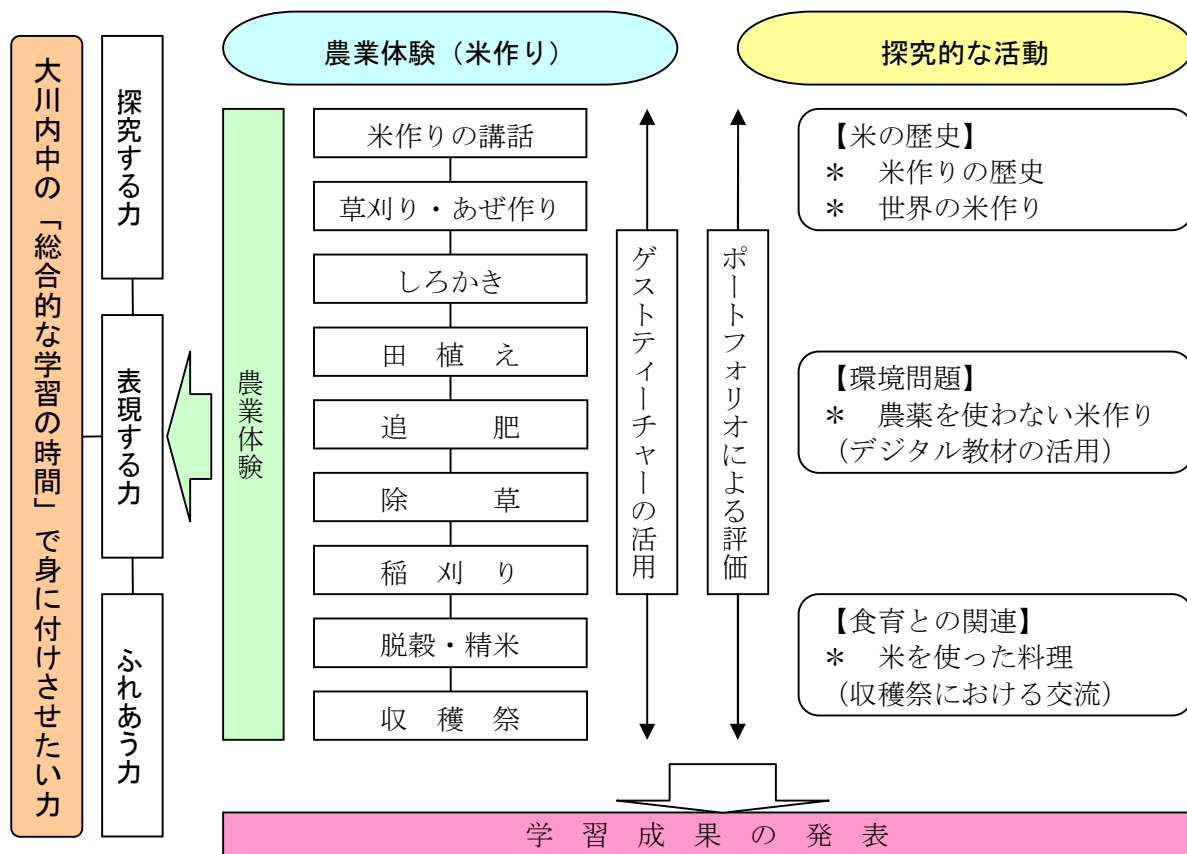
【実践例】出水市立大川内中学校 坂口洋幸教諭の実践を基に作成

1 単元名 食の原点「農業」を探ろう（第1学年）

2 単元の目標

- (1) 米作り体験活動や米に関する探究活動を通して，日本の自然環境や歴史を見直すことで，米作りを中心とする農業の意味，ものづくりの喜びや尊さ，環境の大切さなどについて考えることができるようにする。
- (2) 米作り体験や米に関する探究活動を通して，大川内に対する理解と愛着を深め，地域の構成員としての自覚を促すとともに，将来の大川内について考えるきっかけとする。
- (3) 米作りを通して，地域の人々や自然・伝統文化とふれあい，豊かな感性や表現力を高め，学校や郷土を愛する心情や態度を養う。

3 単元の構想（全24時間） * 指導計画を基に総合教育センターで作成



4 指導に当たって

- (1) 体験活動と学習をつなぎ、生徒が体験を通じて学べるようにする。
- (2) 地域の方をゲストティーチャーとして活用し、米作りの作業や農業についての考えを学ぶ機会を作る。
- (3) 教科・領域との関連を図り、生徒が様々な視点から農業について考えられるようにする。
- (4) 食育との関連を図り、食文化や食生活、食と農の関係について理解を深められるようにする。
- (5) 一つ一つの体験活動がばらばらで単発的なものとならないように、学習の蓄積としてポートフォリオを活用し、体験の感想はもとより、学習からわかったことや疑問などの学習の軌跡をとらえられるようにする。

5 本時の指導計画（４・５時間目）

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入 (課題の設定)	1 稲作はいつごろ日本に伝わったのか調べる。 2 学習課題を設定する。 日本と世界の米作りについて調べよう	5	1 社会科の授業や小学校での学習を想起させる。 2 調べる方法やまとめ方を示し、学習の見通しをもたせるようにする。 社会科の授業や前時に聞いたゲストティーチャーの話を基に、自分たちが疑問に思ったことを生徒自らが学習課題として設定し、探究活動に入ることが大切である。
展開 (情報の収集)	3 米作りの歴史について調べる。 生徒が体験する自分たちの手で行う田植え、しろかき、草抜きなどに関連付けて考えさせることで、課題解決への意欲付けを行う。	30	3 グループに分かれ、調べ学習をさせる。 ・ 各時代によって、米作りにどのような工夫が見られるか、調べさせる。 ・ 現代の機械化された米作りとの相違点にも着目させたい。
	4 世界の米作りについて調べ、日本の米作りとの相違点をまとめる。 〔調べる内容〕 ・ 東南アジアの焼き畑 ・ タイの浮き稲 ・ フィリピンの棚田 ・ アメリカの大規模稲作	30	4 NHK教育《おこめ》第3回「世界のこめ作り」を視聴させる。 ○ 地域ごとにグループに分かれ、調べ学習をさせる。 ・ 世界の諸地域の米作りの特徴を調べ、利点や欠点をワークシートにまとめさせる。 ・ NHKデジタル教材の活用を図る。 * I C Tの活用
展開 (整理・分析)	5 調べたことを発表する。 ・ 各班の発表を聞き、分かったことをワークシートにまとめる。 調べるだけでなく、分かったこと、考えたこと、これからの体験活動に生かしていきたいことなどを様々な方法でまとめ、発表する（言語活動）ことが大切である。	25	5 地域ごとに調べた内容を発表させる。 ・ 海外と比較して、日本の米作りについて考えさせる。
め終 ・末 (まとめ)	6 本時のまとめをする。	10	6 地域の気候や風土によって様々な米作りの方法があることや、独自の文化を生み出していることをつかませたい。

